

福知山公立大学 2021 年度 卒業式式辞

本日、ここに福知山公立大学を卒業し学士の学位を取得された109名のみなさん、おめでとうございます。本学の教職員をはじめここで働き学ぶすべての者たちを代表して、みなさんに祝意を表します。ご家族ご親族の方々にも心からお慶びを申し上げます。

また、コロナ禍での式典ですので、ご来賓には昨年同様、設置者である福知山市の大橋一夫市長様お一人をお招きし、ご祝辞を賜りますことになりました。篤く御礼申し上げます。

さて、ほとんどの皆さんは覚えてはいないでしょうが、卒業生のみなさんの大半の方を本学にお迎えした2018年4月3日の入学式の式辞で私はこんなことを申し上げました。

そもそも19世紀前半に産業革命とともに確立してきた資本主義の社会は、機械制大工業とそれを基礎にかたちづくられる人間同士の関係、つまり生産関係とひいては社会関係全般を、絶えず革命していかなければ生存できない。生産の絶えることない変革、あらゆる社会状態の絶え間ない動揺、永遠の不安と騒乱は、以前のあらゆる時代とは違う近代資本主義社会の特色なのだよと言った、世界史に残る19世紀中葉の著名な宣言の一節を紹介しました。

みなさんは本学在学中にこの言葉で表される現代人類社会の絶え間ない動揺と不安と騒乱をかつてないほど実感されたことと思います。予想もしなかった新型コロナウイルスの世界的蔓延、その中で社会活動の激変、大学での学びや学生生活も、地域社会での活動も大きく変わりました。他方で第4次産業革命とも称される情報技術の急速で飛躍的な発展、つまりは生産の絶えることない変革の中で人と人とのつながり方が大きく変貌する兆しを経験しました。さらにSDGsという言葉が社会的に定着し、それに表された地球と人類のあり方の危機的な状況を乗り越えるべき課題と不安、加えて最近の大国による隣国への武力侵攻など、数えきれない社会変動や動揺・不安を体験されたことと思います。この体験と実感は生涯忘れられないでしょう。それだけに貴重な学生時代の学習であったと言わねばなりません。

ところで、4年前の入学の時、私はもう一つのことを申しました。それは先に紹介した宣言の時代、19世紀半ばのドイツやフランスの詩人たちの言葉の紹介でした。

ドイツの詩人は「この動揺する時代に自分までぐらつくのは災いを増すばかりだ。おのれの志を守ってゆずらぬ者だけが世の中を作り上げて行くのだ」と言い、フランスの詩人は「未来はいくつか名前を持っている。弱者にとっては『不可能』。臆病者にとっては『未知』。考え深く勇気のある者にとっては『理想』」だという言葉の紹介でした。

つまり、現代社会にあっては不安定さと激動は絶え間なく、永遠に、繰り返し現れます。しかし、起ち現われる疾風怒濤に晒されながらも、生き抜き、新たな社会と時代を創る営みを続けているのが人類であり、地域社会で生き、暮らし、活動している人びとなのです。

入学式で申し上げた言葉を再度繰り返して卒業されるみなさんに伝えることになりましたが、みなさんはこういう地域の人びとと交わり、人びととともに学びあって、未来の創造に主体的に加わる人間になることを学んだはずで、みなさんがこの大学で培った学力とは、そういう生き方のできる意欲と能力です。

どうか卒業後も学び続け、「おのれの志を守ってゆずらぬ者」、未来に「理想」を掲げて進む「考え深く勇気のある者」として、活動し続けてください。

それではみなさん、お元気で。ご機嫌よう。

2022年3月23日 福知山公立大学学長 井口和起